

取組名称	産学連携・環境に配慮したサステナブルファッション推進プロジェクト ブランド「マールトウキョウ」			団体設立後の経過年数	116年
応募取組主体名称	大妻女子大学家政学部被服学科 ファッションビジネス研究室	活動地域	日本	応募取組の活動年数	3年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への思いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動平衡賞				



東京の縫製工場と打ち合わせする学生達

取組の要旨

本取り組みは、SDGs視点での実践教育・研究の推進、国内繊維産業の振興、そして持続可能な社会の実現を目的とする。本企画では、大妻女子大学・吉井ゼミがファッションブランドを立ち上げ、国内の様々な企業と共に環境配慮型の素材の使用、生産方式、商品企画、ECモデル、そしてリアル店舗でのイベントを構築して社会発信するものである。学校側にて商標登録・管理も行い、商品企画と販売計画を学生が行うが、収益は協力企業側につける形を基本とする。教育面だけでなく、SDGs視点での企業の行動変容にも影響を与える。

実績の要旨

(1)当プロジェクトでは、毎年ヒット商品が生まれるが、今年度は、東レとの協業による、環境に配慮した素材使用の日傘(晴雨兼用)が大反響により完売した。Instagramを活用したPR効果もあり、若年層にもアピール出来た。(2)今年実施した「ららぽーと」でのライブコマース当日の閲覧数が1,000件を突破。受注生産型の商品購買も進んだ。消費者に国産サステナブルファッションの価値を訴求出来た。(3)消費者庁主催のシンポジウム等への参加やテレビ・新聞等のマスメディアを通じて、当プロジェクト実績を発信出来ている。

取組評価の要旨	環境への貢献	(1)国内企業との受注生産方式の構築による海外での大量生産モデルからの脱却、(2)環境配慮型素材の利用。
	社会・経済への貢献	国内流通の衣料品の約98.5%が海外製であるが、国産商品を活性化させる本企画は、国内ファッション産業の振興に貢献する。
	地域資源の活用	本企画では各地域の繊維の利用を図る。さらに各地域での資源循環を通じた繊維を利用することで、環境への貢献を図る
	普及・汎用性	学生によるSNS等での発信や大型イベント参加を通じ、サステナブルファッションの意義・重要性を若年層に普及させてきた。
	革新・ユニーク性	本学にてブランドの商標登録・管理を行い、学生が主体的に企業と連携して、商品企画、販売、広報等を実施することである。
	継続性	大学の授業の一環として行い、毎年メンバーを変えて取り組むことで、継続性とプロジェクトの発展化を図っている。

展望の要旨

(1)全国の生産者の大規模参加、(2)多くの人々が企画参加出来る場の提供、(3)産学連携による国内・海外でのEC確立。